

委員会だより

<4月14日(日) 10名出席>

- 【1】財務報告：3月度決算報告(甲斐さん)
— 委員会了承。
- 【2】お知らせコーナー
(1)井上さんご葬儀に、皆さんに色々お手伝い頂いたことに感謝の表明あり。
(2)葬儀などで教会備え付けの寝具を使用した場合、枕カバー、シーツはクリーニングして戻すこと、なども徹底していく。
(3)イグナチオ渡辺氏叙階式が、4/13に富士聖ヨハネ学園で行われた。これに先立ち当教会より¥30,000のお祝いを3/30に山手教会にてお渡しした。(教会一般会計より¥20,000,山崎神父様より¥10,000で計¥30,000)
(4)教会建屋内補修工事が、予定通り進行中：
・お聖堂内天井張り替え 4/8~4/11
・お聖堂内メイン柱塗装 4/12~4/13
・男子、女子トイレ内部塗装 4/8~4/11
・お聖堂内、玄関ホール、台所までの通路床張り替え 4/14~4/20
・新集会所屋根、ひさし廻り塗装 4/15~4/20
・裏の物置の窓修理 4/13完
(5)教会掃除の件：補修工事の為、婦人会にはご迷惑をかけますが、宜しく願います。

【3】お話し合いコーナー

- (1)電話が繋がらなくて困ることが多い件：
・電話の子機の置き方が悪くて、はずれた状態となつて繋がらなかつたことが多い。きちんと置いて頂くことを徹底する。
・夜は、子機を1台、2階に持って行くことを山崎神父様へお願いする。
- (2)聖歌集戸棚に私物は置かぬことを徹底する。
- (3)堅信式について：
・司教様控え室(応接室)にカーテン設置する
・お祝いパーティ.....
1)プログラム 井上さん
2)お料理メニュー 花坂さん
3)祭壇のカーテンをクリーニング、泣き部屋カーテンも替える
4)執務室窓ガラス取り替え手配

壮年会だより

<4月21日(日) 16名出席>

- ▶ 堅信式の件
4月28日(日) ミサ時間午前9時30分
堅信受堅者 8名
壮年会の役割：司教様接待；東原氏、乾杯音頭；小谷氏、写真；石井氏、ドリンクコーナ；鈴木、橋、七浦、平瀬各氏
写真代は壮年会負担
- ▶ 一粒会の件
小谷氏より一粒会の口座を増やしたいので、協力して欲しい旨話しあり。壮年会として口座を設け、年1000円を会費より出すこととする。

庭の手入れ

5月は庭の手入れを行う予定になっているが、滝川氏と連絡を取り計画する。

神父様御出張

山崎神父様が5月24日~26日に御出張される。当番表を貼り出すので、ご協力お願いします。特に壮年会は夜(PM7~9)の当番に協力して欲しい旨清水委員長より依頼あり。

婦人会だより

<4月21日(日) 36名出席>

婦人会の遠足

三浦半島に決定。(三笠公園経由城ヶ島)

古着の販売を行います

売れる程度のものでご提出下さい。6月2日頃までに御寄付下さい。

5月のバザー奉仕日 5月20日です。

靴下カバー、ベール入れ、人形等製作

横浜婦人同志会 入会のご案内がありました

同志会の一年間の主な活動状況：黙想会、親睦のための遠足、観劇会等
詳しくは、阿部映子様に直接お尋ね下さい。

次回例会 5月19日(日) お茶当番はD地区

.....

★ フランシスコ・ザベリオ 官下礼造神父様が4月22日朝5時帰天されました。(享年91才)
官下神父様は1975年~83年中和田教会主任司祭を務められ、山手教会での通夜、告別式には、壮年会、婦人会より多数の方が参列されました。

.....

★ 4月28日 浜尾司教様により堅信式が行われ、この後司教様を囲んで祝賀パーティーが開かれました。受堅者は以下の方々です。(敬称略)

ヨゼフ	窪田 春雄
マリア	窪田 とき
ルドビコ	清尾 真哉
マクシミアノ コルバ	武田 洋一
フランシスコ アシジ	井上 潤
ピオ	石井 一
ヨハネ	下迫 英司
フランシスコ ガリ	石崎 信
マリア	石崎 博美
マリアモニカ	タウ・タン・タニ

.....

★ 転入 ヴィンセンシオ 布川 薫
泉区和泉町1589-1 コーポ入内嶋 2-10C号室

.....

★ 洗礼 4月21日 フランシスコ・アシジ 内田 臨太郎
(平成8年2月17日生)

.....

★ 御逝去 4月30日ヨゼフ 窪田 春雄 様

.....

★ 教会の修理工事完了(委員会だより[2]-[4]項参照)

.....

★ 五十嵐貞也氏が4月12日交通事故で藤沢湘南病院に入院されました。(約1ヶ月の入院加療予定)
早くお元気になられますようお祈り下さい。

.....

今月の予定

委員会	5月12日
主の昇天	5月19日
聖霊降臨	5月26日
サロン	5月12,26日
レジオ	5月10,17,24日



第214回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
Tel. (045) 803-6141
1996年5月5日



模索の冊 (中)

山崎 正俊

実はそうではなかったことが、いまは誰にでも、歴史的には疑う余地がないという断言ができるほどになっている。そして、確かな足取りで続いていると信じられているキリスト教会のほうでも、はやりすたれだけでなく、分裂につぐ分裂が終ることなく、ほとんどの宗派は、イエズスさまの教えのすべてでもないことは明らかでも、どれほどを保っているかははっきり云えないばかりか、そのイエズス・キリストのどれほどの部分を、どの程度に分有していたか、現に所有しているかを明言できないのではないかと、私には思える。

あまりにも心もとない語り草であることはたしかだけれど、何故か、いくらかの相異は当然のことで、善意でさえも対立しているほどだから、それは許容範囲内でのこと。

こうしてみると、それぞれに盲従する者からは、それを受け入れていながらも、何んのために、そのように云えるのかと批判的にとり入れては、自分なりに「よりよいもの」を選び取ろうとする態度、いろんな先人たちの在りかたなど引き比べての、その場なりの判別と思い付きにたよることにもなるしかあるまい。そのもとは同じであっても、まったく別の原理原則にたよっているかのように見えるとは、なんとしたことか。

それでも、真(シン)のものを求めているわけだから、その反省はしなければなるまいし、たえず結果を見ながら、修整しつづけるはずで、冷静に、その場合にそのように判断された理由を見つめることも大切なことになり、それ以外の道はないはずのものという絶対的な決め手など探しようもないと仮定したのち、すべてを、経験をかさねながら身につけるこ

と。記録をし取捨選択の経過を残しながら、次回に役立てる資料ともすること。視点を移した反対の立場からも見つめるなど、まったくややこしいことで、けっきょく、その場まかせのことになるのもやむを得ないなどとなってしまうのだろう。

こうなってくると、あのファリザイ派のことなども、切り捨てることは簡単ではなくなるのではないか。あの人たちのよりどころには、生命の与え主(ヌシ)、この世の創造主(シュ)に従うという大目的があり、自分たちの従い易い方途を選んだ結果のことで、あれは彼らなりのクフウであったわけで、キリストの解釈によって否定されるようになるという、歴史上の経験による、時代的変更の意味をもつ一事例ではなかったのか。

どうも、血の巡りのにぶい頭であれこれ考えるから、曲がりすぎたようだが、これからはますます、たちどまってる静かな反省の刻が間をとって、しかも他の人によつての探求に手助けされ、ゆきずまった枠のスキマを飛び出し、あまりにも空々漠々とした世界に.....

(付2) 大江さんの小著を読んでいたら、いまずぐに書き記しておきたくなって、メモをするうちに二月十五日の真夜中をすぎたらしい。時計が十二時を知らせてくれた。それから数日のあいだ、ときどき訂正と加筆をしていたら、たいてい真夜中をすぎた。疲れて中止。読みかえて、もっと易しいものにしたいと思うのに、またしても夜半すぎになるので、自分にさえスジが通っているのであるならば、それで一応はよしとしようとする。

1996.3.14



スイスの山旅

山田孝信

健康の為に50才を過ぎてから始めた登山だが、その魅力にすっかりとりつかれ、今では趣味として熱中している程だ。始めはハイキング程度の低山の山歩きから、段々と高い山や美しい山、有名な山等に魅力を感じるようになり、今までに深田久弥の「日本百名山」を60ほど登ったが、できれば今後全部登りたいと夢はふくらんでいる。

そんな私が海外の山に目を向けるようになったのは、私の所属する山の会に海外生活が長く、英語の堪能な方(A氏)がいて、山行を一緒に折に、スイスの話で盛り上がり、是非行って見たいと話したところ、「私が案内しましょう」と言ってくれた。それから話が具体化し、A氏を含む山の仲間4人で8日間の予定でスイスに行くことになった。案内者(A氏)以外は海外は初めての者ばかりなので、いざ行くとなると要領が分からず、何回かのミーティングを開き準備を進めて行った。パスポートの取得、クレジットカードの作成、ユースホステルの加入、トラベラーズチェック(TC)の作成、スイスの地図の購入等準備に追われる日々が続いた。飛行機は格安航空券、宿はユースホステル、現地での乗物はレンタカーを使用することにして、予算は約20万円とリーズナブルな旅にした。

十数時間の空の旅の後、チューリッヒに到着、念願のスイスの地に私たちは立った。空港で早速レンタカーを借り、ツェルマット目指し出発した。

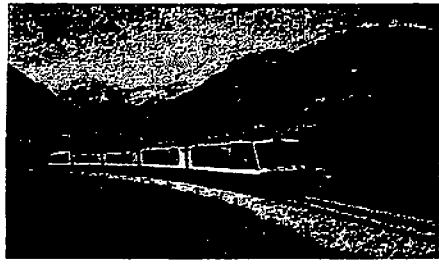
鮮やかな緑の斜面に木造の三角屋根の建物、絵葉書を見ているような素晴らしい景色に感動の連続。ツェルマットには車で入れないので一つ手前の駅テッシュの駐車場に車を預け、登山電車に乗り、ツェルマットに入った。ここでの乗物は電気自動車か馬車である。いかに環境保全に力を入れているかが分かる。さっそく電気自動車のタクシーに乗り、今夜の宿ユースホステルに向かう。ここではほとんどが日本人の若者で占められていて、外国にいるにもかかわらず、まるで日本の山小屋に居るような錯覚にとらわれた。

明朝宿の窓から憧れのマッターホルンが美しい姿を見せていた。早速支度をして一番の登山電車に乗り、ゴルナーグラード(3,135m)に向かった。さらにロープウェイに乗換え、ここからはアイゼンをつけシュトックホルン(3,532m)に向かう。1時間ほどして念願の頂上に立つ事ができた。夢にまでみた感動の一瞬だ。見渡す限りの白銀の世界。マッターホルンを中心に4,000m級の山が並び、又氷河もあり壮観な眺めだ。頂上を後にしてゴルナーグラードまではロープウェイで降り、ここからはハイキングコースで、マッターホルンを眺めながら、5時間ほどかけツェルマットまで下った。途中、リッフェルゼ湖に寄る。そこにマッターホルンが逆さまに写っていた様子が本当に見事だった。

スイスにはハイキングコースが沢山あるが、標識も整備され、多くのハイカーが楽しそうに歩いている。スイスの人は何故かチロルハットにニッカズボンがよく似合い(足が長いから?)うらやましい限りだ。ここでも中高年のハイカーが多く、特に老夫婦がのんびり歩いているのが見受けられた。

この後ユングフラウヨッホ(3,454m)——ここは登山電車で頂上までいける——、裾野のハイキング、首都ベルンの観光等スイスを充分堪能し、帰途についた。

私はこのスイスの旅を通して、山の素晴らしさを改めて認識し、海外の山に登ったのだという自信と、夢が実現したという満足感で胸がいっぱいであった。これを機に、海外の山に病み付きになりそうである。今年も9月にカリフォルニアのヨセミテ公園のホイットニー(4,418m)登山を計画しており、楽しみにしている。



スイス山旅の風景と、スーパーバイクツアー

ミサ当番表 (96年5月、6月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	備考
5/5	復活節第五主日	宮崎	森田	6/2	三位一体の主日	小野	森田	壮年会
5/12	復活節第六主日	青年会	大宮	6/9	キリストの聖体	青年会	大宮	青年会
5/19	主の昇天	婦人会D地区	岩淵	6/16	年間第十一主日	婦人会A地区	岩淵	婦人会
5/26	聖霊降臨の主日	岩淵	石川	6/23	年間第十二主日	滝川	石川	壮年会
				6/30	年間第十三主日	婦人会A地区	森田	婦人会

※当番の方は10分前には集合して下さい。

※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。(萩原: TEL 802-6258)

聖地を巡礼しました (7)

カナの教会

甲斐 至信

巡礼6日目にガリラヤ地方のカナの教会を訪れました。イエスが幼児から成人するまで過ごしたナザレから北東10Km、ガリラヤ湖からは西20Km程のところにカナの町があります。

丘に続くブドウ畑に囲まれた静かな町に入り石畳の道をしばらく歩いた先にカナの教会があります。教会の内部には、小祭壇の前に奇跡を思い起こす水ガメが置かれています。

春の一日、イエスはこのカナ出身の弟子の一人であるナタナエルの親類の結婚式に招かれたのです。母マリアと弟子たちも一緒でした。

イエスは湖畔の町カファルナムから伝道を始められた(マ14.12)とありますが、伝道活動の最初の奇跡をこの結婚式でお示しになりました。

イエスが水をブドウ酒に変えられた結婚式での出来事は皆さんよくご存じですが、ユダヤ教の結婚式ではブドウ酒は会食の宴のためだけでなく結婚成立のために大切なものだったのです。

ユダヤ教の結婚式

「三日目にガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。イエスもその弟子たちも、この婚礼に招かれた。(ヨハ2.1-2)」

現在でもユダヤ教徒の結婚式は、週の三日目(火曜日)に普通行なわれる。これは創世記の天地創造からの由来によるものです。「神は見て、良しとされた」という言葉がこの日に二回使われていることから、ユダヤ教では三日目を吉日と定めているのです。

神は言われた。

「天の下の水は一つ所に集まれ。乾いた所が現われよ。」そのようになった。

神は乾いたところを地と呼び、水の集まった所を海と呼ばれた。神はこれを見て、良しとされた。

神は言われた。

「地には草を芽生えさせよ。種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける果樹を地に芽生えさせよ。」そのようになった。地は草を芽生えさせ、それぞれの種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける木を芽生えさせた。神はこれを見て、良しとされた。

夕べがあり、朝があった。第三の日である。(創世記1.9-13)

婚礼は非常に大切な儀式とみなされ婚礼の日取りが決まっていれば、たとえ身内の者が亡くなった場合でも、葬式よりも結婚式が優先されます。

挙式の日には、新郎、新婦とも明け方から式が終了するまで断食を守るといいます。

この結婚式を通じて二人のこれまでの罪は赦され、人生が新しく始まるのです。

婚礼の誓約は、フッパーと呼ばれる天蓋の下で新郎と新婦が並んで行なわれます。花婿の四人の友人がフッパーの四隅の柱を持つ。この柱は新郎、新婦が生まれたときに、両親が植えてくれた木を使用します。花婿は、誓約の時に飲みほした杯を足で踏んで割る決まりがあります。これはどんな喜びの時にも、あのバビロン捕囚の時代を忘れないためのものです。

ユダヤ教の結婚式では、ブドウ酒は会食のためだけでなく、食後の「七つの祝福の祈り(※)」に不可欠なものでした。おそらくカナの結婚式でブドウ酒がなくなった頃は、この最後を締めくくる大切な祈りの前であったと思います。イエスの母マリアは、あわててイエスになんとかして欲しいと頼んだのでしょう。

もし、ブドウ酒がなければ、最後の祝福の祈りができず結婚式は成立しないからです。イエスの最初の奇跡は、このような切迫した危機を救ったのです。

イエスはこの最初の奇跡をガリラヤのカナで行なってその栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。このあと、イエスは母、兄弟、弟子たちとカファルナムにいき、そこで幾日か滞在された。

イエスは再びカナを訪れたとき、カファルナムに住む役人の息子を死から救われた。カナでの二度目の奇跡であった。(ヨハ4.43-54)

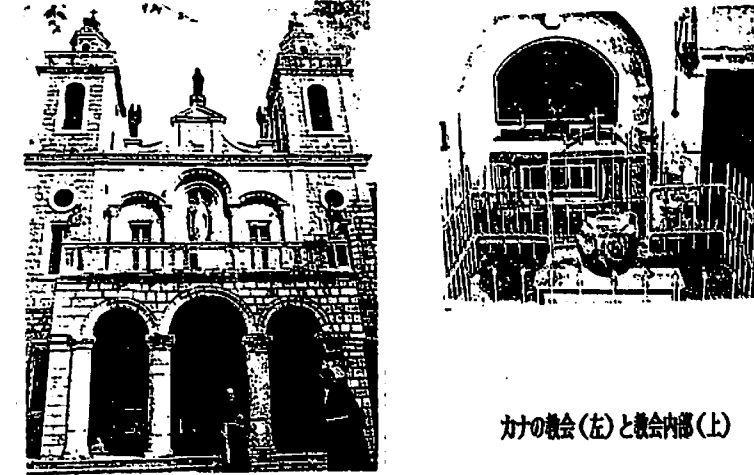
※七つの祝福の祈りは、最近の結婚式では、しきたりを厳格に守る人達だけが行なっているようです。時間が掛かり式が長くなる、終了後に新郎新婦がすぐに新婚旅行に行くなどで省略されるとのことです。

(上記、聖書の世界 発行所ミルトスの話) (七つの祝福の祈りについて調べましたが内容不明です。)

ピーターフィッシュ(ペトロの魚)

「海に行って釣り糸をたれなさい。そして最初につれた魚をとって、その口を開けると銀貨一枚が見つかるであろう。それを取り出して、わたしとあなたのために納めなさい」(マ17.27) ガリラヤ湖には、約40種の魚類が棲息していますが、中でも有名なのはピーターフィッシュ(ペテロの魚)と呼ばれている魚です。この魚はクロスズメダイの一種で、父親の魚は口中で稚魚を孵化させる特徴があり、稚魚が再び口中に帰ってこないように湖底の小石を口に含むこともあるといわれます。ペテロが釣った魚の口に、銀貨が入っていたのも、この魚の習性からきたものでしょう。

(巡礼中にホテルで食べましたが、とても美味しいものでした。)



カナの教会(左)と教会内部(右)